

第1 基本方針

本県におけるいぐさの栽培面積は全国の約96%を占め、そのほとんどがいぐさ栽培農家によって畳表に加工され、全国各地に出荷・流通している。いぐさは本県農業、とりわけ県南・八代地域における重要な基幹作物であるが、住宅様式の変化による畳表の需要減少および中国からの輸入畳表との競争、さらに和紙表などの化学表の普及等の状況に加え、いぐさ栽培農家の高齢化や後継者不足等によっていぐさ栽培農家や栽培面積は年々減少し、平成26年産いぐさの栽培面積は約725haと、最盛期（平成元年）の11%程度にまで減少している。

一方、本県農業産出額（3,245億円H24）の約36%を占める野菜は、県南平坦地域が主産地となっている。特に、トマトは本県農業で米の450億円に次ぐ432億円を産出する主要作物であり、県南地域農業のけん引役となっている。

こうした中、消費者の健康志向の高まり等により、トマトのリコピンやいぐさのルテオリン等の機能性成分やいぐさの吸放湿、吸音等の機能性が注目され、新たな需要開拓に取り組まれるようになった。

また、い業研究所において、環境制御型ハウスや、県南地域の農林水産物を活かし地域の活性化を目指し策定された「くまもと県南フードバレー構想」に基づくフードバレーアグリビジネスセンターが新設された。

そこで、これらの施設を活用して農産物の機能性を活用するための成分分析や鮮度保持技術の確立にも取り組む。

第2 重要研究事項

1 いぐさの持つ機能性を活用した需要に対応した品種や栽培加工技術の開発

いぐさの持つ吸放湿・吸音等の物理的機能性や抗酸化作用・抗菌作用等の化学的機能性を利用する新たないぐさの需要に対応できる品種や栽培加工技術の開発。

2 県オリジナルいぐさ品種の栽培技術の開発と乾燥技術の改善

県オリジナル品種に関する収量品質の向上や安定化を図るための栽培・加工技術の確立及び乾燥技術の改善。

3 顧客ニーズを加味した畳表の加工技術の開発

県オリジナル品種等に関し、畳表の使用者の立場に立った品質の評価方法を検討し指標化に取り組むとともに、用途に応じた加工技術を確立。

4 機能性成分に着目したトマトの栽培技術の開発と加工適性の検討

機能性成分含量の高い品種の検索や、機能性成分を高める栽培方法、多収栽培技術の開発と加工適性についての検討。

5 露地野菜の出荷調整に対応した鮮度保持技術の確立

キャベツ、レタス及びブロッコリー等露地野菜の生産環境や貯蔵方法の検討を行い、出荷調整及び保存期間を延長させ、鮮度保持システムを開発。

第3 試験研究課題一覧

【い業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
いぐさ作	1. 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) いぐさ品種の育成	4,923	県単	① いぐさの品種育成 ② いぐさの機能性成分等利用技術の開発	H26～継続 H26～H28
		(2) いぐさ優良品種の保存と増殖	農産課	県単 令達	① 原々種の保存と増殖 ② 原種の生産	H6～継続 H6～継続
		(3) ジーンバンク・イグサ遺伝資源保存受託事業	904	外部 資金	① イグサ遺伝資源保存受託事業	H15～継続
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) オリジナル品種による高品質いぐさの安定生産技術の確立	1,061	県単	① 優良品種の高品質いぐさ栽培技術の確立 ② いぐさの気象要因による生育変動対策(作況調査) ③ いぐさ優良品種の乾燥技術の改善	H18～継続 H1～継続 H26～H27
		新規 (2) 新たな機械および資材を活用した省力化栽培技術の確立	745	県単	組替 ① いぐさ機械移植のための省力的育苗および栽培技術の確立 組替 ② いぐさへの適用が予定されている除草剤を活用した省力的除草体系の確立 新規 ③ イグサシムシガの省力的防除体系の確立	H27～H29 H27～H29 H27～H29
		(3) 消費地ニーズを加味した用途別いぐさ加工技術の確立	998	県単	① 優良品種の加工特性評価と加工法の確立 ② 消費地サイドにもわかりやすい畳特性の指標化	H23～H27 H23～H27
		(4) いぐさの機能性を活用した商材開発とそれに伴う新規栽培方法の確立	11,692	外部 資金	① 機能原材料生産に向けたいぐさ栽培技術の開発 ② 機能原材料としてのいぐさの規格策定 ③ いぐさと化成品の複合商材(天井材)の設計と効果検証	H26～H27 H26～H27 H26～H27
		(1) いぐさ病害虫発生予察事業		令達	① イグサシムシガの発生消長	H1～継続

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
野菜作	1. 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 産地間競争に打ち勝つオリジナル品種の開発と地域適応性(再掲)	3,138 総額	県単	① 良食味イチゴ促成品種の開発 [農産園芸研究所野菜研究室] [い業研究所野菜栽培研究室] [高原農業研究所] ② 培養変異等によるイチゴ有用個体の誘導および評価 [農産園芸研究所バイオ育種研究室] ③ 極良食味熊本長ナス系品種の栽培技術確立と地域適応性 [農産園芸研究所野菜研究室] [高原農業研究所]	H21～継続 H22～H27 H21～H27
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	新規 (1) 露地野菜の出荷調整に対応した鮮度保持技術の確立	2,304	単県	① キャベツ、レタス、ブロッコリー等生鮮野菜の出荷調整に対応した鮮度保持技術の確立	H27～H29
		(2) 熊本県開発促成イチゴ育成系統の栽培技術確立(再掲)	599	県単	① 選抜系統の栽培特性検討及び栽培管理技術の確立 [農産園芸研究所野菜研究室] [い業研究所野菜栽培研究室] [高原農業研究所] ② 現地試験 [農産園芸研究所野菜研究室]	H25～H28 H26～H28
					(3) 機能性成分に着目したトマトの高品質・多収栽培技術の開発	2,634

注) **新規**: 本年度から新たに取り組む課題

組替: 課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長: 課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

短縮: 課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題